

# 有明海・八代海等総合調査評価委員会 報告(平成29年3月)について

# 有明海・八代海等総合調査評価委員会報告(平成29年3月)の概要

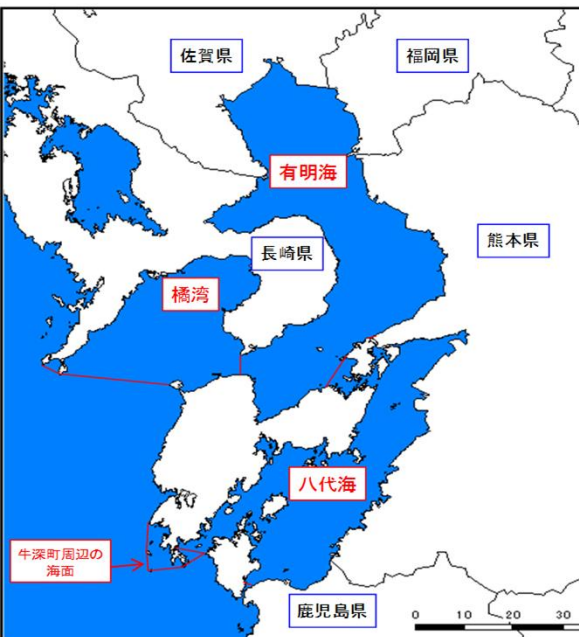
## 基本的な考え方と再生目標

- ・基本的に、生物・水産資源が豊かだったと言われる1970年頃から現在までの環境等の変化を対象とする。
- ・また、有明海・八代海等の海域全体で目指すべき再生目標を次のとおり設定した。

希有な生態系、生物多様性及び水質浄化機能の保全・回復  
二枚貝等の生息環境の保全・回復と持続的な水産資源の確保

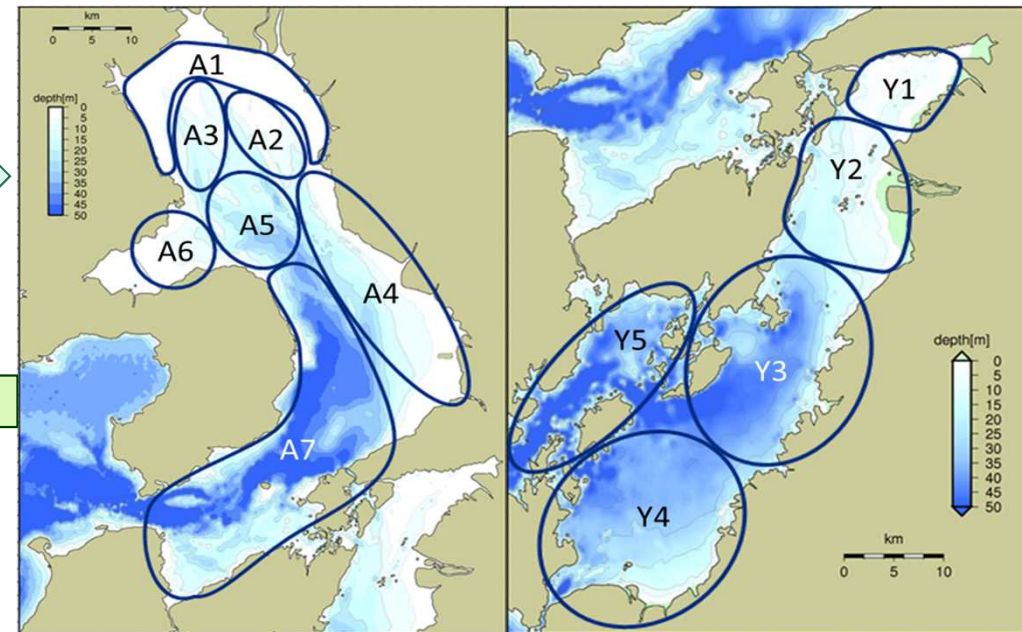
- ・上記の再生目標を踏まえ、生態系を構成する上で、または水産資源として重要と考えられる「ベントス(底生生物)の変化」、「有用二枚貝の減少」、「ノリ養殖の問題」及び「魚類等の変化」の4項目を取り上げた。

## 再生方策の検討



特別措置法で定める海面

海域の環境特性に応じて、  
有明海・八代海を個別海域に区分し、  
以下の海域区分を設定  
有明海: 7 海域 (A1 ~ A7)  
八代海: 5 海域 (Y1 ~ Y5)



有明海の海域区分

八代海の海域区分

問題点とその原因・要因の評価を踏まえ、  
個別海域毎の再生方策  
有明海・八代海等に係る全体方策  
をそれぞれ検討

# 有明海・八代海等総合調査評価委員会報告(平成29年3月)の概要

平成29年3月31日

## 有明海・八代海等の再生に向けた方策

有明海・八代海等の再生に向け、「順応的な方法」も取り入れつつ、多くの関係者と協働し、以下の諸施策を総合的に進めていく必要がある。

| 対象種等          | 再生方策  | 有明海               |    |    |    |    |    |    | 八代海 |    |    |    |    | 橘湾・牛深周辺海域 |  |
|---------------|---|-------------------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|-----------|--|
|               |   | A1                | A2 | A3 | A4 | A5 | A6 | A7 | Y1  | Y2 | Y3 | Y4 | Y5 |           |  |
| ベントス(底生生物)の変化 | •ベントス群集・底質の継続的なモニタリングの実施  | 有明海・八代海等に係る「全体方策」 |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •ベントス群集の変化・変動要因の解析調査の実施   |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
| 有用二枚貝の減少      | •種苗生産・育成等の増養殖技術の確立、人工種苗の量産化、種苗放流・移植の推進  | 有明海・八代海等に係る「全体方策」 |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •エイ類等の食害生物の駆除・食害防止策の実施  |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
| タイラギ          | •広域的な母貝集団ネットワークの形成(浮遊幼生の移動ルート及び稚貝の着底場所の把握、母貝生息適地の保全・再生、母貝生息適地への稚貝放流・移植等)  |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •資源の回復期における資源管理方法(例えば、採捕の制限、保護区の設定等を含む)の早急な確立、実施  |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •泥化対策等の底質改善(覆砂、海底耕耘、浚渫、作漑等)の実施  |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •立ち枯れへい死の原因・要因の解明   |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •資源の減少要因の解明   |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
| サルボウ          | •貧酸素水塊の軽減対策(汚濁負荷量の削減、水質浄化機能を有する二枚貝の生息環境の保全・再生(例:カキ礁再生のための実証事業)、成層化緩和等のための流況改善の検討、貧酸素水塊の発生状況モニタリングの継続実施、水質環境基準に追加された底層溶存酸素量の適切な類型指定) |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •母貝生息適地の保全・再生   |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
| アサリ           | •泥化対策等の底質改善(覆砂、海底耕耘、浚渫、作漑等)、採苗器の設置等   |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |
|               | •資源の回復期における資源管理方法(例えば、採捕の制限、保護区の設定等を含む)の早急な確立、実施  |                   |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |           |  |

: 個別海域毎の再生方策  
 : 有明海・八代海等の海域全体または多くの海域に共通する再生方策  
 「全体方策」が該当しない海域も一部ある(ノリ養殖が実施されていない海域等)



# 有明海・八代海等総合調査評価委員会報告(平成29年3月)の概要

平成29年3月31日

## 今後の調査・研究開発の課題

水環境や水産資源等に係る科学的知見の蓄積を図るとともに、環境改善や水産資源の回復手法の開発等を進めるため、以下の調査・研究を進める必要がある。

### データの蓄積

- ・ベントス群集(種類数、種組成、個体数)の現状と変化
- ・有用二枚貝、魚類等の資源量、漁獲量及び漁獲努力量
- ・有用二枚貝の浮遊幼生や着底稚貝の分布状況
- ・タイラギの有明海中部、南部における分布状況
- ・魚類等の再生産や生息の場の分布状況
- ・水質、底質の現状と変化
- ・藻場・干潟等の分布状況
- ・干潟域等における二枚貝(有用二枚貝以外も含む)の現存量
- ・植物プランクトン等の基礎生産量の現状と変化

## 研究・開発

### 生物・生態系に関する研究・開発

- ・本海域に特有の生物の生息状況と生活史の解明
- ・生物の生息状況と物理環境との関連性の解明
- ・藻場、干潟及び浅場の保全・再生技術の開発
- ・干潟における生態系の機能(水質浄化機能等)の解明
- ・流況の変化が生態系等に及ぼす影響の解明
- ・気候変動が生態系等に及ぼす影響の評価

### 物質の動態に関する研究

- ・筑後川等の流域からの流入物質の移流拡散・堆積過程の解明
- ・海域における底質等の動態解明

### 水産資源に関する研究・開発

- ・タイラギ等の二枚貝の着底機構、着底後の減耗(タイラギの立ち枯れへい死を含む)要因及び再生産機構の解明
- ・アサリ等の二枚貝の母貝生息適地及び浮遊幼生の移動ルートの解明(広域的な母貝集団ネットワークの形成に関する検討)
- ・アサリ等の成長・再生産阻害要因の解明
- ・有用二枚貝の資源管理方法の確立
- ・魚類等の再生産機構及び資源量の変動要因の解明
- ・増養殖技術の改良・開発
- ・栄養塩や基礎生産量と水産資源量との関係の解明

### 水質汚濁、赤潮、貧酸素水塊、底質等に関する研究・開発

- ・窒素、りん等の物質循環(底質からの溶出等)や硫化水素の挙動の解明
- ・赤潮の発生と増殖に係る各種要因の解明と予察技術の開発
- ・貧酸素水塊の発生・消滅機構の把握と軽減方策の研究開発
- ・ノリ酸処理剤等の挙動と環境への影響把握
- ・覆砂、海底耕耘、浚渫、作漑等の底質改善技術の改善や新たな手法の開発